東京を、日本を、世界を支える

East Tokyo Power

都内屈指の産業集積を誇る東京・城東地区。地区内に拠点を構える企業の技術は、国内や海外の産業の発展・イノベーションの礎になっており、日本の経済とモノづくりの復活において欠かせない存在でもある。企業は“下町の底力”を武器に積極経営で、付加価値の高い製品とサービスを届け続ける。

企画・制作　東東京支局

日鉄住金ドラム株式会社

代表取締役社長　小原　知実

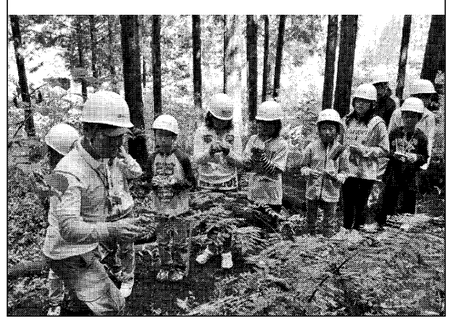
〒136―0071　東京都江東区亀戸一―五―七
電話　〇三(五六二七)二三二一
http://www.drum.co.jp

日鉄住金ドラムは、昭和の初めに我国で最初にドラム缶の商業生産を開始して以来、コア事業であるドラム缶事業において、製品品質の高さ、柔軟な受注・生産・輸送体制、さらに、新用途向けドラム缶の開発によって、お客様のさまざまなニーズに迅速に対応するとともに、高能率・少人数工場の実現によるコストダウンを推進し、スリムで強靭な企業体質の構築を図っています。さらに、事業領域の拡大のため、子会社との連携を強化し、周辺領域である特殊容器や充填機、ドラム缶製造設備等のエンジニアリング事業の拡充を図っています。

日鉄住金ドラムは、お客様の満足を最優先に、内容物とともに総合容器メーカーとしていっそう発展してまいります。

アサヒグループホールディングス株式会社

アサヒグループ　環境ビジョン2020
～自然の恵みを明日へ～



代表取締役社長 兼 COO　小路　明善

〒130―0001　東京都墨田区吾妻橋一―二三―一
電話　〇三(五六〇八)五一一二
http://www.asahigroup-holdings.com/

アサヒグループは、水や穀物など、自然の恵みを用いて事業活動を行っています。地球環境や人間社会が持続可能なものであってはじめて、私たちは、お客様に、安全・安心な製品をお届けすることができます。

現在、地球環境の変化は、あらゆる企業や生活者に早急かつ具体的な対応を求めています。私たち人間が、地球環境と共生していく社会を形成することは、人類共通の使命でもあります。

アサヒグループは、「低炭素社会の構築」「循環型社会の構築」「生物多様性の保全」「自然の恵みの啓発」という4つのテーマを柱として、環境の課題に対して積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

株式会社　ＪＣＵ

JCU
株式会社JCU

代表取締役会長　小澤　惠二

〒110―0015　東京都台東区東上野四―八―一
電話　〇三(六八九五)七〇〇一
http://www.jcu-i.com

ＪＣＵはメッキ薬品とメッキ装置をそろえる表面処理の総合メーカーです。ニーズの先を見据える卓越した研究開発力により、主力の自動車やエレクトロニクス産業向けに加え、建材や水栓金具など様々な分野に製品を提供しています。

当社はアジアを中心とした海外展開において、国内で長年培った表面処理技術を現地のニーズに合わせて事業を展開しております。モノづくりに最適な製品とサービスをお届けするために研究開発とフォロー体制を整備し表面処理の総合メーカーとして、先端技術の開発と一層のサービス向上に努めてまいります。

今後とも当社の活躍にご期待下さい。

岡部株式会社

okabe

取締役社長　廣渡　眞

〒131―8505　東京都墨田区押上二―八―二
電話　〇三(三六二四)五一一一
http://www.okabe.co.jp/

台風や地震などの自然災害から、国土や人々の生活を守り、社会活動の基盤となる建造物や公共施設などの安全を確保し、豊かな社会の構築を目指す。それが私たち岡部の誇りとする仕事です。

地震から人や建物などを守る耐震・制震・免震工法、道路などに接する山の斜面の崩壊を防ぐ斜面補強工法の開発、さらには建設現場の安全を守る足場など、常に社会を守り、人の命を守ることを最優先にしてきました。これからも安全性を第一に、省資源・環境保全など、時代の要請に確実に応えていくことが、私たちの重要な使命であると考えています。

創業以来の「安全・安心の提供を通じて、社会に貢献する」を経営理念に、「岡部ブランド」のさらなる強化を目指します。

株式会社フェローテック

代表取締役社長　山村　章

〒103―0027　東京都中央区日本橋二―三―四
日本橋プラザビル五階
電話　〇三(三二八一)八八〇八
http://www.ferrotec.co.jp/

当社は1980年の設立以来、磁性流体応用製品のパイオニアとして36年の歴史を持ち、半導体・FPD製造装置の動力導入用真空シール、防塵用ロボットシールでは、トップシェアを有しています。現在では、製造プロセスに用いられる石英製品、セラミックス製品、シリコン製品、CVD―SiC製品を取扱っており、小口径シリコンウェーハ、冷熱素子サーモモジュール、パワー半導体用基板などの製造も行っています。今後は当社の海外販売網を活用し、欧米・中国・アジア等の半導体・FPD・自動車市場を中心により一層グローバルな製品展開、および市場開拓を強化してまいります。

トーヨーカネツソリューションズ株式会社

代表取締役社長　柳川　徹

〒136―8666　東京都江東区東砂八―一九―二〇
電話　〇三(五八五七)三一二六
http://www.tksl.co.jp

当社は、物流システムの企画、設計、製作、施工、販売およびメンテナンスを手がける物流総合メーカーです。空港における手荷物搬送システムは国内で圧倒的なシェアを有し、デジタルピッキングシステムは多くの生活協同組合の配送センターに採用されています。ケース自動保管システム「マルチシャトル」を核としたシステムは、グローバル大手ネット通販企業や日本最大の総合流通グループに選ばれるなど、トーヨーカネツソリューションズの製品は幅広い分野で活躍しています。

今後も、「Challenge & Change（挑戦と変革）」を続け、モノづくりを通じてお客さまに信頼される企業として貢献してまいります。

株式会社キングジム

代表取締役社長　宮本　彰

〒101―0031　東京都千代田区東神田二―一〇―一八
電話　〇一二〇(七九)八二〇七
http://www.kingjim.co.jp

キングジムは「キングファイル」やラベルライター「テプラ」を基軸とした、ビジネスシーンをサポートする製品を提供しています。

近年では、テキスト入力に特化したデジタルメモ「ポメラ」や、スマートフォンでデジタル化しやすいノート「ショットノート」など、それまで世の中になかった商品を開発しています。

今年4月に発売した新商品「めざましイヤホン」は、耳につけたイヤホンが振動して時間を知らせる新感覚のサイレントアラームです。電車での移動中や、仮眠をとりたい時などに使うと、周りには気が付かれずに起きることができます。振動の強さは3段階で調節可能で、イヤホンのコードは本体に巻きつけることができるので、持ち運びにも便利です。

キングジムはこれからも新規概念商品を提案し、新しい価値の創出に挑戦してまいります。

株式会社内田洋行

UCHIDA

代表取締役社長　大久保　昇

〒104―8282　東京都中央区新川二―四―七
電話　〇三(三五五五)四〇七二
http://www.uchida.co.jp/

1910年満鉄への測量・製図機器を提供する会社として創業107年を迎える当社は、時代変化とともにICTカンパニーとして成長して参りました。タブレット端末や教育クラウドサービスなどを自在に活用できる環境づくりとして、「21世紀型スキル」を育む 未来の学習空間「フューチャークラスルーム®」の開発、働き方変革「チェンジ・ワーキング®」コンサルティングサービスや統合型業務ソフトウェア（ERP）「スーパーカクテルシリーズ」を提供し、ICTを基盤としたビジネス開発を進めています。「情報の価値化と知の協創をデザインする」内田洋行は新たな価値創造に積極的にチャレンジし、これからの社会づくりに貢献して参ります。

サンワテクノス株式会社

SUNWA
サンワテクノス株式会社

代表取締役社長　山本　勢

〒104―0031　東京都中央区京橋三―一―一
電話　〇三(五二〇二)四〇一一
http://www.sunwa.co.jp/

当社は1949年の創業以来、「技術商社」として市場動向を的確に捉え、中国をはじめ東南アジア諸国、及び欧米にも拠点を開設し、積極的な事業展開を図っています。

電機・電子・機械の3部門を軸に、部品をはじめ機械、装置、各種システム、更には、設備工事に及ぶ広い範囲にわたり、提携メーカーとの協業により、顧客のニーズに対応できる体制を整えています。

また、3部門の最新技術と優れた製品情報を融合させたコアビジネスに、エンジニアリング力とグローバルSCMソリューションをプラスし、世界で活躍する独立系技術商社として明るい未来に向けて新たな価値を創造します。

イグス株式会社

igus®

代表取締役社長　北川　邦彦

〒130―0013　東京都墨田区錦糸一―二―一
アルカセントラル一五階
電話　〇三(五八一九)二〇三〇
http://www.igus.co.jp

当社は「Safe（安全・安心）&Save（節約）」をテーマに、機械可動部などの動きを助け、動きを軽くする樹脂部品を製造しています。

樹脂材料から配合し射出成形で作る樹脂部品は、潤滑剤を使わずに優れた耐摩耗性を発揮します。軽量な樹脂部品は機械や装置の軽量化のみならず、コスト削減にも有効です。

今年新たに開発した製品は、生産現場の情報をセンサーで感知しながら、自社の膨大な品質試験結果と照らし合せて製品寿命を予測。交換時期を前もって知らせることで、予期せぬ稼働停止を防ぎます。Industry 4.0やIoTへの対応ニーズにも応えながら、これからも「Safe&Save」を提供してまいります。